

給餌を科学するところなる! という結論がコントロールフィーダーシステムです。

ナカマチック®

肥育牛用●精密飼料自動給餌装置 C-50型・56型

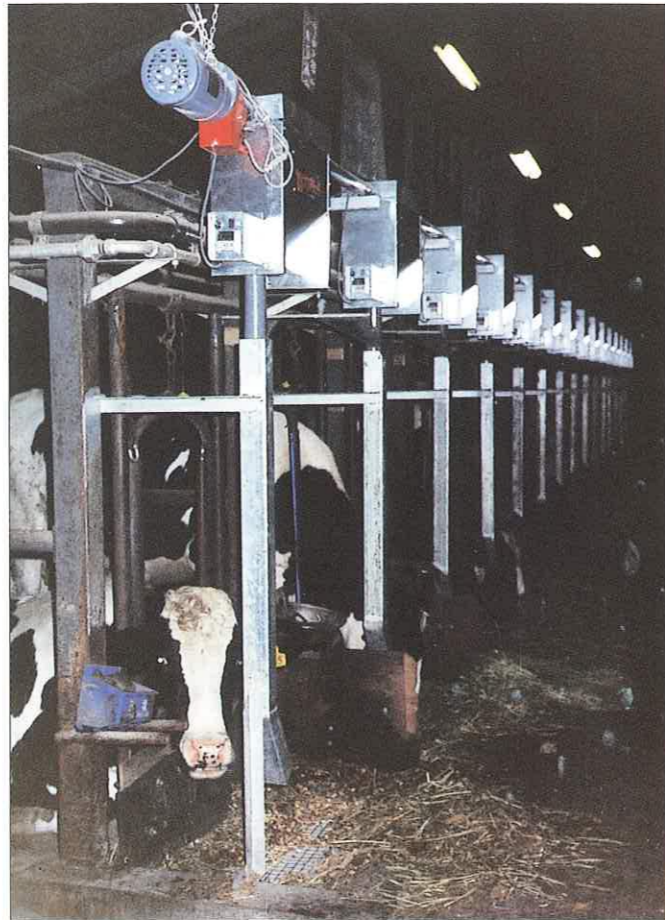
ビーフコントロールフィーダー

全自動単頭・定量・多回給餌装置

POINT

ビーフコントロールフィーダーの特長

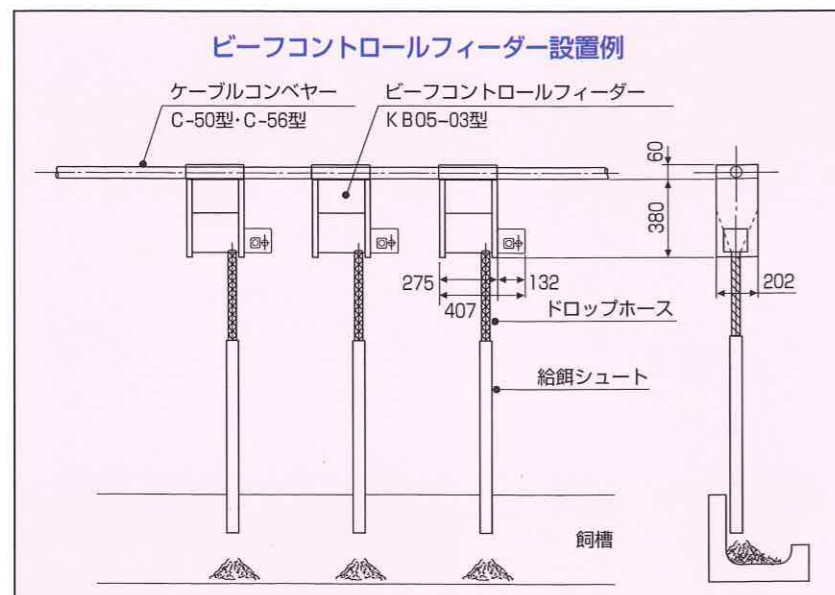
- 遺伝子工学やバイオテクノロジー等のハイテクを駆使した非常に高度な畜産が登場し、それに合わせて飼育方法も精密な飼養管理が要求され始めています。
- 1頭当りの1日分の設定給餌量を数回に分け、自動で定量給餌する方式で、とても人間では出来ない精密な給餌管理をする全自動・単頭・定量・多回給餌装置です。
- 現状での飼料効率・肉質向上をねらう上で、誰がやってもあまり差が出ない機器よりも、給餌システムの組み方や運転方法などによる給餌の仕方の違いにより、効果が大きく望める給餌装置の方が良い……。そんな給餌装置がナカマチック・ビーフコントロールフィーダーです。
- 牛の可能性を最大限に引き出し、能力を高めて、飼料を肉に転換する効率を追求するには、“エサ”の与え方がその総てです。
- さらに、そのデータを記録、つまりプリントアウト、記憶・保管することで、データの分析・検討がより容易にできる給餌管理機能を備えています。



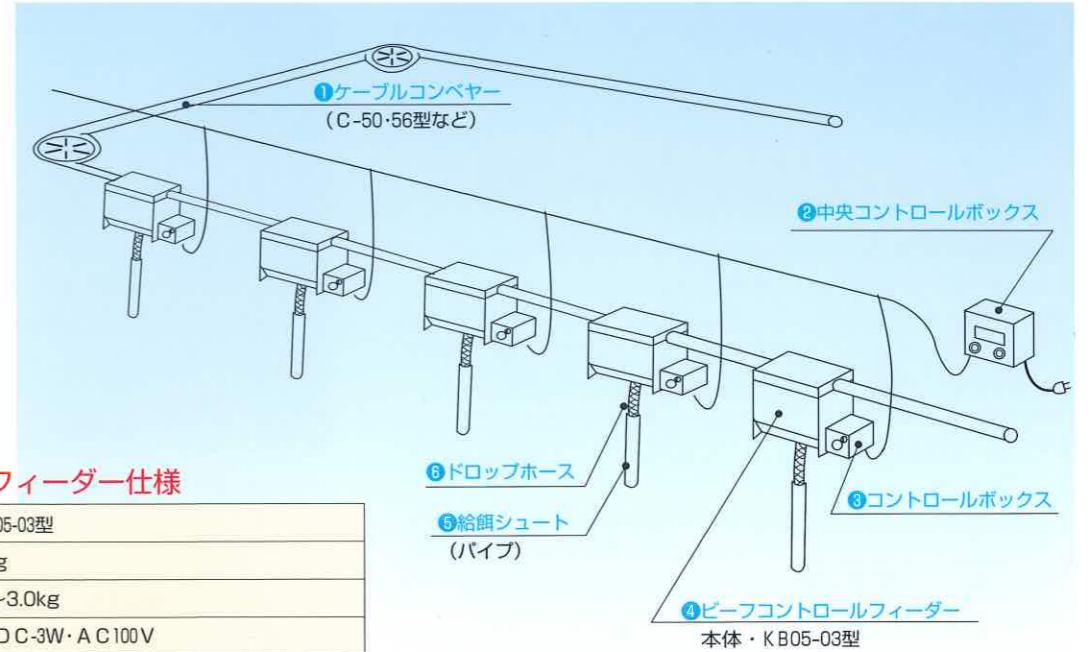
BASIC

基本的な考え方

- ★ 毎日の給餌量を多数回に分けて与える
- ★ 家畜にはできるだけ“ユックリ”食べさせる
- ★ 家畜には十分な給餌スペースを与える
- ★ 飼育日令に合った量の適正給餌をする
- ★ 必要以上の餌は飼槽の中から無くす
(必要な時に必要な量を与える)



- ① ケーブルコンベヤー
飼料搬送機、C-50型・56型などを使用します。
- ② 中央コントロールボックス
ビーフコントロールフィーダーのシステム全体を制御するコントロールボックスです。(24時間タイマー内蔵)
- ③ コントロールボックス
ビーフコントロールフィーダーを制御するボックスです。
- ④ ビーフコントロールフィーダー
本体、飼料が入るホッパーで下部に切出し用のスクルーが設置してあります。
- ⑤ 給餌シュート(パイプ)
- ⑥ ドロップホース



ビーフコントロールフィーダー仕様

| | |
|---------|-------------------|
| 型式 | K B05-03型 |
| ホッパー容量 | 3.2kg |
| 飼料切出し量 | 0.2~3.0kg |
| モーター・電源 | 24VDC・3W・AC100V |
| 給餌回数 | 4~10回/日 (1~3kg/回) |
| 飼料 | マッシュ・ペレット (φ6まで) |

合理化の第1歩は最小限の省力化から…始めませんか!

ナカマチック®

肥育牛用●走行式給餌機

ビーフフィーダー

POINT

走行式給餌機の特長(手動式・自動式)

- 飼料自動搬送機の能力上、長距離搬送に適さない飼料などを、半自動化、または自動化するのに最適です。
- 牛舎の建築材(支柱等)に走行レールを設置しますので、建築物の強度等の関係から、1回に走行給餌できるホッパーの容量は200~300kgが適量として設計しています。飼養規模、牛舎構造等により設計・製作を致します。
- 飼料タンクからホッパーまでは飼料自動搬送機により供給されますから、天候に左右されることなく作業でき、手給餌や配餌車に比べ大幅な省力化となります。

